



広報番組「知ってよ!宝塚」は市ホームページ、またはYouTubeからご覧いただけます。ID1020159

昨年、二度目の七冠制覇という、囲碁・将棋界を通じて初の快挙を達成。前人未到の新記録を樹立し、“棋界の奇跡”と評されている井山裕太さん。その功績が称えられ、棋士としては初となる国民栄誉賞の受賞が決定し、海外でも活躍するなど囲碁界を超えて大きな注目を集めています。

市広報番組「知ってよ!宝塚」の新春特別号として、昨年に収録した井山七冠と中川市長との対談の様子を広報誌でもお届けします。

祝!七冠達成・国民栄誉賞受賞!!

～井山裕太さん特別対談～

ご自身にとって七冠とは

市長 2度目の七冠は前人未到の快挙です。一昨年の11月に六冠になりましたが、それからの1年は井山さんにとってどんな1年でしたか?

井山 11月に名人を失って六冠に後退した後は、2度目の七冠は正直まったく考えてもみませんでした。七冠という大変なことをもう一度できたというのは、本当に自分の力だけではなくて、いろいろな方の力が後押ししてくれました。この世界は勝つか負けるかの世界で、負けることもよくあることです。その負けをどう次に生かせるかと言うことが非常に大事だと常に思っています。一昨年の負けを、結果的には次に生かすことができたのかなとは思っています。七冠を失ってからの1年間で、また少しは進歩できたのではないかと実感もあります。

石井邦生九段との出会い

市長 ジャパン碁コンGRESSを宝塚で昨年と一昨年と開催させていただきました。昨年には師匠で市内にお住まいの石井先生と師弟タッグマッチをしていたいただきましたね。5歳で石井先生に出会われたというのは井山さんにとってどのような出来事でしたか。

井山 自分にとって先生との出会いは、すべてと言ってしまってもいいかならないですが、それぐらい大きなことでした。その出会いがなければ今の自分はなかったと思います。



囲碁の祭典“ジャパン碁コンGRESS”で師匠の石井邦生九段と(昨年7月15日)

碁に対する姿勢であったり、いろいろな面で先生の影響をたくさん受けたと思います。

囲碁の魅力とは

市長 囲碁を始めたきっかけは5歳のときにお父さんが買ってきてくださったテレビゲームだそうですね。囲碁の魅力も、子どもたちに伝えるとしたらどういった言葉になりますか?

井山 5歳の子どもが大人と対等に勝負できるものはそんなにないような気がしています。年齢差や男女差、言葉の壁も関係なく、碁盤と碁石さえあれば同じように楽しめるところが囲碁の大きな魅力の1つだと思います。

市長 碁盤の上に自分の宇宙というか自分の世界をつくりだすことができるのも魅力ですね。

井山 何も碁石が置いていない状態だと、まささらな画用紙のような感じですか。そこに自分なりに絵を描いていく。ただ囲碁の場合は、良くいえば

相手とつくりあげていく。2人で1つの棋譜をつくりあげていくということも囲碁の魅力だと思います。

市民の皆さんに向けて

市長 市民の皆さんに何か伝えていただけることはありますか。

井山 囲碁は子どもからお年寄りまでずっと楽しめるゲームだと自分は思っています。また、囲碁というのは先を読むゲームであったり、計算や記憶力とかいろいろ必要じゃないかと思われがちなのですが、その人の感性などで打てるものです。むしろいろんなことを経験された方のほうが、うまく表現できたり生かせるというところもあると思います。まずは1歩を踏み出していただけだと思います。

プレゼント企画

井山七冠のサイン色紙を抽選で3人にプレゼント!

応募方法 62円のはがきに〒住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、広報誌の感想を書いて、〒665-8665(住所不要)「市役所広報課」へ郵送。2月20日(火)必着。抽選の結果は当選者にも、2月中に電話でご連絡させていただきます。



広報課 ☎77・2002 FAX74・6903